

愛知県立芸術大学
「病院アウトリーチプロジェクト」
2024 年度報告書



2025 年 3 月

愛知県立芸術大学「病院アウトリーチプロジェクト」委員会

目次

ごあいさつ	安原雅之	3
「病院アウトリーチプロジェクト」について	安原雅之	4
プロジェクト実施体制・協力組織	畑陽子	5
謝辞	安原雅之・七條めぐみ	7
2024 年度事業報告		8
1. 2024 年度の「病院アウトリーチプロジェクト」	七條めぐみ	8
2. 2024 年度アウトリーチ実施一覧	畑陽子	10
3. 2024 年度 授業概要	七條めぐみ・畑陽子・倉橋祐佳里	11
4. 東部保育園へのアウトリーチ実施	倉橋祐佳里	18
5. 北保育園へのアウトリーチ実施	佐藤杏奈	19
6. てとろ保育園へのアウトリーチ実施	中村由加里	21
7. ALL4KIDS ナーサリースクール長久手へのアウトリーチ実施	中村由加里	23
8. 藤田医科大学病院へのアウトリーチ実施	中村由加里	25
9. 豊田西病院へのアウトリーチ実施	佐藤杏奈	30
10. 大雄会第一病院へのアウトリーチ実施	倉橋祐佳里	32
11. アール・ブリュット	安原雅之・石川貴憲	33
振り返り		38
1. 「病院アウトリーチプロジェクト」8 年度目の振り返り	三木隆二郎	38
2. メンターとしての振り返り	中村由加里・倉橋祐佳里・佐藤杏奈	40
3. 受講生の振り返り		42

※本報告書に掲載した写真については、実施先の施設より掲載の許諾をいただいております。

ごあいさつ

プロジェクト代表 音楽学部教授 安原雅之

愛知県立芸術大学「病院アウトリーチプロジェクト」の2024年度の報告書をお届けします。このプロジェクトは本学の学長特別研究費を得て「試行」という形で2017年度からスタートしたのですが、現在は大学の事業のひとつとして、さらに発展した形で実施されています。

今回の報告書は、2024年度に実施された「病院アウトリーチプロジェクト」の概要を取りまとめています。本年度は、愛知県立芸術大学が定期的に受ける評価の年でしたが、今回の評価にあたり、本プロジェクトは「大学の理念に即して地域の芸術文化に発展することを目指し、誰でも身近にアートを楽しめる環境を提供している」という点で高い評価をいただくことができました。いま、大学は少子化や予算削減等、さまざまな課題を抱えていますが、一方、このような活動に関心を持った学生は増えています。今後も、教育機関としての人材育成・教育、また、地域に根ざした大学として、地域に開かれた活動を継続していきたいと考えております。

資金面では、株式会社東海メディカルプロダクツ会長・筒井宣政様と副会長・筒井陽子様ご夫妻からのご寄付に加え、公益財団法人愛銀教育文化財団様より第34回（令和5年度）助成先に採択していただき、今年度の活動資金に充てることができました。みなさまからのご支援は、プロジェクトの大きな支えになっています。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

本学の「病院アウトリーチプロジェクト」は、教育面や芸術面で成果を挙げるだけでなく、地域貢献にも役立っています。来年度もさまざまな「場」での色々な形態による実践にチャレンジする予定です。

このプロジェクトに対して今後ともみなさまのご支援をいただきたく、よろしく願いいたします。

「病院アウトリーチプロジェクト」について

代表 安原雅之

このプロジェクトは、芸術を必要としていながらホールや美術館に足を運ぶことが困難な方たちの元へ、芸術家が出向いてアートを届けるアウトリーチ活動のうち、届け先を病院や福祉施設に絞って実践するもので、本学の大学院在生を対象に、病院等における良質な芸術活動に関わるアーティストを育成します。

そのために2017年度、大学院音楽研究科「アート・マネジメント」の授業を拡充し（美術研究科は「プロジェクト研究」として開講）、新たに病院等における芸術活動に特化した講座を開設しました。受講生は、前期は子供向け、後期は病院や福祉施設に特化したアウトリーチに関して理論と実習を通じてノウハウを学ぶことにより、「自ら企画し、実施できる」スキルを身に付けます。

その場に集う人に心の癒しを与え、病院や福祉施設にとっては環境の向上になり、芸術家にとっては社会経験の場となり、本学にとっては地域貢献と卒業生のキャリア育成支援となります。

医療や福祉の現場における芸術活動は、必要性は認識されながらもいまだにノウハウが確立していませんが、本学でそれに関わる芸術家が育成されることにより、愛知県はもとより、日本全体にとって大きな成果が生まれることが期待されます。

◎本プロジェクトの活動紹介ページ（愛知県立芸術大学ウェブサイト内、過年度の活動報告をご覧ください）

・和文

<https://www.aichi-fam-u.ac.jp/social-research/social/05.html>

・“Hospital Outreach” (English)

<https://www.aichi-fam-u.ac.jp/en/explore-aua/social-relations/hospital.html>

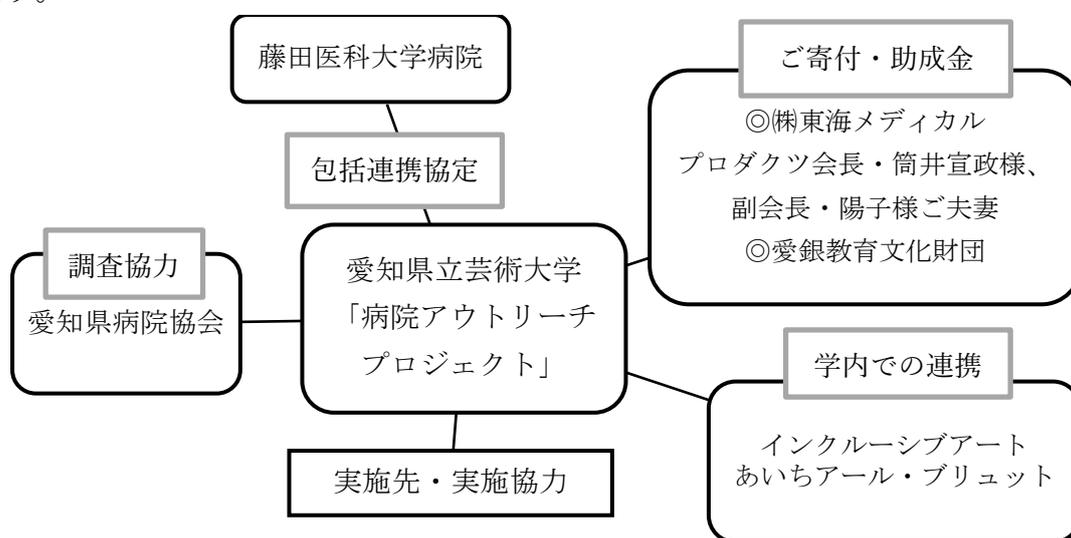
◎本プロジェクトの YouTube チャンネル

<https://youtube.com/channel/UC-6n63JaJX6zHABOWVqifcA?si=9MWpRp9UxtQbv3ne>

プロジェクト実施体制・協力組織

畑陽子

このプロジェクトは、アウトリーチを行うアーティストの育成、医療機関をはじめとした実施先における芸術活動に関する調査・研究を行うとともに、芸術による地域貢献も射程に入れた活動です。プロジェクトの実施にあたっては、昨年度に引き続き、藤田医科大学病院、株式会社東海メディカルプロダクツ会長・筒井宣政様、副会長・陽子様ご夫妻、愛銀教育文化財団、長久手市文化の家をはじめ、地域の医療機関、福祉施設、文化施設等から多大なご支援・協力をいただきました。以下に、簡潔にその体制を示します。



2024 年度実施先・実施協力

【実施先】

藤田医科大学病院（豊明市）
豊田西病院（豊田市）
東部保育園（尾張旭市）
北保育園（知多郡武豊町）
てとろ北保育園（長久手市）
てとろ大永寺保育園（守山区）
ALL4KIDS ナーサリースクール長久手（長久手市）

【実施協力】

長久手市文化の家
大雄会第一病院（一宮市）

2024年度プロジェクトメンバー

代表 安原雅之（本学教授・音楽学）

副代表 佐藤直樹（本学教授・デザイン）

スーパーバイザー 三木隆二郎（アートマネジメント実務）

オブザーバー 井上さつき（本学名誉教授・音楽学）

アドバイザー 村瀬香（本学非常勤講師・音楽療法）

コーディネーター 中村由加里（本学卒業生・クラリネット奏者）、倉橋祐佳里（本学卒業生・ピアノ奏者）、佐藤杏奈（本学卒業生・サクソフォン奏者）

事務局長 七條めぐみ（本学専任講師・音楽学）

事務局 畑陽子（本学卒業生・音楽学）

謝辞

安原雅之・七條めぐみ

愛知県立芸術大学「病院アウトリーチプロジェクト」は、中部地区の医療系企業、財団、さらには実践先の保育園や病院から多大なご支援をいただいています。

まず、株式会社東海メディカルプロダクツ会長・筒井宣政様、副会長・陽子様ご夫妻からは、2017年度に500万円のご寄付を頂戴しました。ここに厚く御礼申し上げます。この資金は例年、院内コンサートをはじめとするアウトリーチ活動の演奏者謝金・交通費、楽器・機材運搬費、チラシ等の作成費などの運営費に活用させていただいています。副会長の筒井陽子様からは、長い入院生活を送られた次女、佳美様に付き添っていらしたご経験から、病院アウトリーチは立派なコンサートを開くことが重要なのではなく、必要とされる方にどこまで寄り添った演奏ができるかが大事であるという貴重なご助言をいただきました。このご助言を受け、本プロジェクトでは「聴き手に寄り添う」という姿勢を重視したアウトリーチを行ってまいりました。活動を通じて、学生たちの中には、演奏曲目や話し方を工夫する姿勢が確かに根付いてきています。

また、公益財団法人愛銀教育文化財団様より、第34回（令和5年度）助成金（一般助成・団体の部）に採択していただき、40万円の助成金を頂戴しました。ここに厚く御礼申し上げます。この資金は、今年度のアウトリーチ活動のうち、保育園実践に関わる演奏者および指導者謝金・交通費、ならびにプロジェクト運営に必要な備品費として活用させていただきました。

さらに、今年度新たなこととして、社会福祉法人てとろ てとろ北保育園様、同てとろ大永寺保育園様、社会福祉法人ウィズ ALL4KIDS ナーサリースクール長久手様にてアウトリーチを実践させていただくにあたり、演奏者・指導者謝金をご負担いただきました。同様に、学校法人藤田学園 藤田医科大学病院様、医療法人研精会 豊田西病院様にも、演奏者謝金をご負担いただきました。ご支援に厚く御礼申し上げます。

アウトリーチは通常のコンサートと異なり、会場となる保育園や病院、福祉施設のご理解とご協力があって初めて成り立つものです。本プロジェクトの趣旨に共感いただき、患者さんや子供たちのためにとアウトリーチを受け入れていただいたご関係の皆様、心から御礼申し上げます。ありがとうございました。

1. 2024 年度の「病院アウトリーチプロジェクト」

七條めぐみ

「病院アウトリーチプロジェクト」は 2024 年度に 8 年度目を迎えた。今年度は、藤田医科大学病院、豊田西病院で対面によるアウトリーチ公演を行うことができたほか、前期には新たに 3 か所の園を加えた 5 か所の保育園で子ども向けの実践を行った。コロナ禍を経て、医療機関における人の出入りが緩和され、対面でのアウトリーチがほぼ復活したのは喜ばしいことである。一方で、新型コロナそのものがなくなった訳ではなく、インフルエンザや肺炎等の感染症との同時流行もたびたびニュースになっている。引き続き、感染症対策の最前線にある医療機関、および社会を支える保育・福祉施設の置かれた状況を理解することに努めながら、芸術大学がアウトリーチを行う意義を再確認する一年となった。

今年度の前期には、尾張旭市立東部保育、武豊町立北保育園に加えて、社会福祉法人てとろより、てとろ北保育園、てとろ大永寺保育園、さらには ALL4KIDS ナーサリースクール長久手の計 5 か所でアウトリーチ公演を行った。前期には 18 名の受講生による 6 つのチームを作り、北保育園に 2 チーム、東部保育園・てとろ北保育園・てとろ大永寺保育園・ALL4KIDS ナーサリースクール長久手にそれぞれ 1 チームが伺った。今年度は 2 度目の受講生が多くいたことから、アウトリーチ経験のある受講生がチーム内でリーダーシップを取りながら、企画作りを進めることができた。実践においては、本プロジェクトで重視している対象者理解の手順を踏むとともに、「シェアド・ゴール Shared goal」¹や「エントリー・ポイント」²を盛り込んだ企画作りを心掛け、保育現場に良質な芸術を届けるという目標はおおむね達成されたと言える。一方で、受講者数が例年以上に多く、1 年目と 2 年目の受講生が互いに刺激を与えあうチーム組みに苦慮した点、コーディネーターによる授業外での指導時間が多くならざるを得なかった点が、プロジェクト運営上の課題である。

今年度の後期には、藤田医科大学病院と豊田西病院で 5 日程 7 回のアウトリーチ公演を行った。後期は 21 名とさらに受講生が増え、6 つのチームを作り、藤田医科大学病院に 4 チーム、豊田西病院に 2 チームが伺った³。藤田医科大学病院では、2024 年 10

¹ 共通目標。アウトリーチの演者と受入先が共通して抱くことのできる目標を指し、アウトリーチを通じて何を実現したいのかを言語化したものである。本プロジェクトの先駆的存在である、アメリカのカーティス音楽院が提唱している。

² アウトリーチにおいて、対象者の関心を演者に惹きつける手段のこと。

³ このほかに、藤田医科大学病院では授業外での公演を 1 回実施し、2 年度目の受講生が出演した。

月には「フジタモール」横のイベントスペースにて、2025年1月、2月にはB棟1階の「ホスピタルパサージュ」にてアウトリーチ公演を実施した。「ホスピタルパサージュ」は新型コロナ禍以前にアウトリーチを行っていた院内のスペースであり、じつに5年ぶりに同会場での演奏を再開することができた。また、豊田西病院では、2025年1月に2回の公演を行った。いずれの病院においても、受講生が事前に会場打合せに伺い、現場の方のご意見や企画に対するフィードバックをいただけたことから、より患者さんの気持ちに寄り添った企画をお届けすることができたと感じる。それが可能となった背景には、藤田医科大学病院、豊田西病院の各担当者と本プロジェクトとの間で継続的なコミュニケーションが成立しているからであり、質の高いアウトリーチの実現のためには訪問先との関係構築が重要であることが再確認された。

なお、今年度は新たに一宮市の大雄会第一病院でのアウトリーチも予定していたが、感染症の流行により中止となってしまった。授業の構成上、現時点では感染症リスクの高い冬季に病院でのアウトリーチを行わざるを得ない状況である。受講生の実施先確保や、医療現場における芸術アウトリーチの確立という観点から、今後は実施時期についても柔軟に検討する必要があると思われる。

さいごに、今年度はプロジェクトの予算面で大きな変化があった。アウトリーチ公演の受け入れ側である一部の保育園、病院から、出演者や指導者に対する謝金をご負担いただけたことである。これにより、実施先から金銭面でもご支援をいただき、それがプロジェクトの活動資金となるという、好循環が生じた。プロジェクトを持続可能なものとするための予算獲得は、近年の継続的な課題であったが、その状況が一部好転したと言える。とはいえ、大学全体が直面する予算削減の波からは逃れがたく、指導者謝金を削らざるを得ないなど、厳しい状況が続いている。その打開策の一つとして、愛知県立芸術大学「愛芸アシスト基金」⁴の支援先の一つとして「病院アウトリーチプロジェクト」を加えることで、学外からの寄附を募る仕組みを整えた。この制度は2025年4月に開始する予定であり、これを広く周知することにより、活動資金の確保に努めたい。

⁴ 愛知県立芸術大学の特色ある研究・地域連携活動に対し、個人または法人からご寄付を募る枠組みのこと。 <https://www.aichi-fam-u.ac.jp/guide/summary/14.html>

2024 年度事業報告

2. 2024 年度アウトリーチ実施一覧

畑陽子

2024 年度アウトリーチ実践一覧

通算公演回数	実施日	会場名 企画名 (ねらい)	対象者 出演者	公演時間 (分)	参加者 (人)	スタッフ (人) 〔注1〕
1	6月18日	北保育園 (知多郡武豊町)	園児、保育士	20	23	2
2		それぞれの楽器のキャラクターや音色の違いを知ってもらい、音楽の面白さを感じてもらう	加藤愛梨 (ピアノ)、高橋喜仁 (トロンボーン)、小谷由里香 (ユーフォニアム)、狩野将輝 (パーカッション)	20	24	
3				20	25	
4				20	25	
5	6月26日	東部保育園 (尾張旭市)	園児、保育士	20	41	2
6		多様な表現を通して、園児が自身の声で表現する楽しさや音楽の新しい発見や気づきを大切にもらう	永田佳暖 (ソプラノ)、姫田美優 (ソプラノ)、奥洞ありさ (ピアノ)	20	28	
7				20	28	
8	7月2日	北保育園 (知多郡武豊町)	園児、保育士	20	23	2
9		クラシック音楽に親しみを持ち、印象深い音楽体験を創造する。	瀬戸口祐也 (バリトン)、市原風太 (ピアノ)、山下菜々 (フルート)	20	24	
10				20	25	
11				20	25	
12	7月12日	てとろ北保育園 (長久手市)	園児、保育士	20	25	3
13		音楽のもつ要素に注目して、その面白さを知ってもらう	桑野友里 (ピアノ)、三島加蓮 (ピアノ)	20	11	
14				20	16	
15	7月16日	ALL4KIDSナーサリースクール長久手 (長久手市)	園児、保育士	20	20	3
16		絵本から聴こえる「音」を楽しもう!	安達莉子 (ピアノ)、佐伯昌恭 (バリトン)、木村純季 (バストロンボーン)	25	19	
17	7月29日	てとろ大永寺保育園 (守山区)	園児、保育士	15	32	2
		クラリネットの魅力を知ってもらう	樋口杏奈 (クラリネット)、関志帆 (ピアノ)、岡田愛音 (クラリネット)	20	12	
				20	17	
18	10月31日	藤田医科大学病院 (豊明市)	患者、病院スタッフ	45	50	2
		華々しさと暖かさのある音楽を通して、グッとくるコンサートをお届けする	小谷由里香 (ユーフォニアム)、加藤愛梨 (ピアノ)			
19	1月17日	藤田医科大学病院 (豊明市)	患者、病院スタッフ	45	80	2
		日常から離れた非現実的空間を目指す	瀬戸口祐也 (バリトン)、市原風太 (ピアノ)			
20		映画音楽を中心に、心揺さぶるワクワクした音楽をお届けする	安達莉子 (ピアノ)、小谷由里香 (ユーフォニアム)、奥洞ありさ (ピアノ)、木村純季 (バストロンボーン)	45	70	2
21	1月27日	豊田西病院 (豊田市)	患者、病院スタッフ	45	30	2
		風景や気持ちを一緒に想像することで、出演者と患者さんの心をつなぐ	桑野友里 (ピアノ)、三島加蓮 (ピアノ)			
22	1月31日	豊田西病院 (豊田市)	患者、病院スタッフ	45	30	2
23	2月28日	藤田医科大学病院 (豊明市)	患者、病院スタッフ	45	65	2
		幸せホルモンが感じられて日常を忘れられるコンサート	篠原智香 (ヴァイオリン)、高東典央 (ヴァイオリン)、樋口杏奈 (クラリネット)、石川芽莉 (ヴィオラ 大木美稀子の代役として)、窪田翔椰 (チェロ)、			
24		多彩な音色で届ける心躍るひとときを通して希望を抱いてもらう	永田佳暖 (ソプラノ)、狩野将輝 (パーカッション)、石橋幹鷹 (ピアノ)、岡田愛音 (クラリネット)	45	50	
合計					約835	

※2025 年 3 月 4 日現在

〔注1〕 スタッフの人数は「病院アウトリーチプロジェクト」関係者のみ計上し、実践先の施設関係者は含まれない。

3. 授業概要

七條めぐみ・畑陽子・倉橋祐佳里

2024 年度の「アート・マネジメント 1 / 2」では、前期に 5 か所の保育園、後期に 2 か所の病院でのアウトリーチを実施した¹。授業では本プロジェクトスーパーバイザーやゲスト講師による講義を行い、アウトリーチに必要な心構えや保育・医療・福祉分野の現状などを学習した。実践に向けては、メンター（本プロジェクト・コーディネーター）がそれぞれ 1~2 チームを受け持ち、プログラム作りとランスルー（通しリハーサル）、振り返りを行った。さらに、保育園・病院の下見に伺ったり、担当者から施設やアウトリーチ対象者に関する説明を受けたりして、対象者への理解に努めた。

なお、本授業は今年度より、美術研究科における「インクルーシブアート」と連携し、音楽・美術の受講生が互いの領域の一部講義に参加するという、相互乗り入れを進めた。その結果、昨年度に引き続き佐藤直樹教授（デザイン）、佐藤文子准教授（陶磁）によるレクチャーを音楽の大学院生が受講するとともに、いくつかの講義には美術の大学院生が参加した。

本稿では、今年度の授業内容一覧を掲載し、授業担当者、スーパーバイザーおよびゲスト講師によるレクチャーの内容をまとめる。

授業担当：安原雅之、佐藤直樹、七條めぐみ

講義担当：三木隆二郎

メンター：中村由加里、倉橋祐佳里、佐藤杏奈

サポート：畑陽子

受講生内訳：

【前期】声楽 4 名、ピアノ 7 名、管楽器 6 名、打楽器 1 名

【後期】声楽 4 名、ピアノ 7 名、弦楽器 4 名、管楽器 5 名、打楽器 1 名

¹ アウトリーチの実践先および各公演の詳細は、本報告書の 18 ページ以降を参照されたい。

前期の授業内容と講師

	日付	講座名・講師名・内容
第1回	4月10日	ガイダンス
第2回	4月17日	「プロジェクトの活動紹介」七條めぐみ（本学音楽学部講師、本プロジェクト事務局長）、メンターと受講生の面談、実践のチーム分け
第3回	4月24日	「芸術アウトリーチとははじめ—地域を創る仕掛け人」三木隆二郎（本プロジェクト・スーパーバイザー）、保育園でのアウトリーチに向けて企画作り
第4回	5月8日	「保育園アウトリーチ入門」三木隆二郎、企画作り
第5回	5月15日	「『サービス』と『ホスピタリティ』について」佐藤直樹（本学美術学部教授／デザイン）、企画作り
第6回	5月22日	「障害者芸術活動支援事業について」佐藤文子先生（本学美術学部准教授／陶磁）、企画作り
第7回	5月29日	企画作り、北保育園とZoomでの打ち合わせ
第8回	6月5日	「レイモンド橋本保育園での音楽あそび実践例」丹下聡子先生（フルート奏者／博士（音楽）／保育士）、企画作り
第9回	6月12日	「第一線音楽家が考えるアウトリーチとは」三木隆二郎、北保育園（6月18日実施）のランスルー
第10回	6月19日	東部保育園（6月26日実施）のランスルー
第11回	6月26日	北保育園（7月2日実施）のランスルー ゲスト：生田創さん（長久手市文化の家館長）、他チームによる企画プレゼン
第12回	7月3日	てとろ北保育園（7月12日実施）のランスルー、6月18日・6月26日・7月2日の実践の振り返り
第13回	7月10日	ALL4KIDSナーサリースクール長久手（7月16日実施）のランスルー、7月12日の実践の振り返り
第14回	7月17日	てとろ大永寺保育園（7月29日実施）のランスルー、7月16日の実践の振り返り
第15回	7月31日	7月29日の実践の振り返り、前期の振り返り

後期の授業内容と講師

	日付	講座名・講師名・内容
第1回	10月2日	ガイダンス、メンターと受講生の面談、実践のチーム分け
第2回	10月9日	「病院や福祉施設でアウトリーチを初めて行う際の留意点」三木隆二郎、チームメンバーでアイスブレイク
第3回	10月16日	「音楽家のためのチラシ作成ワークショップ」佐藤直樹
第4回	10月23日	藤田医科大学病院（10月31日実施）のランスルー、「藤田医科大学病院について」石原慎先生（藤田医科大学医学部教授）
第5回	10月30日	企画作り
第6回	11月13日	10月31日の実践の振り返り
第7回	11月20日	企画作り
第8回	11月27日	企画作り
第9回	12月4日	企画作り
第10回	12月11日	大雄会病院下見の報告、「あなたは社会保障のことをどのくらい知っていますか？」三木隆二郎
第11回	1月8日	大雄会第一病院（※1月12日実施予定→2月28日に藤田医科大学病院にて振替）、藤田医科大学病院（1月17日実施）のランスルー
第12回	1月15日	「福祉施設での演奏活動」石川貴憲さん（サクソフォン奏者）、藤田医科大学病院（1月17日実施）のランスルー
第13回	1月22日	豊田西病院（1月27日・1月31日実施）のランスルー
第14回	1月29日	1月17日・1月27日の実践の振り返り、「データをめぐる状況、研究の最新動向」神谷幸宏先生（愛知県立大学情報科学部教授／ICTテクノポリス研究所長）
第15回	2月5日	1月31日の実践の振り返り、後期の振り返り

授業内容および授業の様子

【前期】

2024年4月17日

講義担当：七條めぐみ

内容：「病院アウトリーチプロジェクト」の活動紹介

「アウトリーチ」という言葉の定義、日本国内での広がりについて触れた上で、本プロジェクトが目指すアウトリーチはどのようなものか、通常のコンサートとどのように異なるのか、過去の実践例を紹介しながら講義した。

2024年4月24日

講義担当：三木隆二郎

内容：芸術アウトリーチとはじめ——地域を創る仕掛人

本プロジェクトのスーパーバイザーによる、例年4月に行う導入的な講座である。自身の活動紹介も交えながら、芸術アウトリーチとはどのようなものか、教育・福祉・医療の3つの分野別に特徴を説明した。

2024年5月8日

講義担当：三木隆二郎

内容：保育園アウトリーチ入門

企画を考える上で指針となる“Shared Goal”（共通目標＝アウトリーチの実践者と受入側の双方に有益な目標）および“Entry Point”（エントリー・ポイント＝対象者の関心を惹きつける手段）について説明した上で、打合せの基本的な留意事項を確認した。さらに、保育園との打合せにおいて特に心がけるべき点を説明するとともに、過去の保育園アウトリーチにおける学生のコメントも紹介した。

2024年5月15日

講義担当：佐藤直樹（本学美術学部教授／デザイン）

内容：「サービス」と「ホスピタリティ」について

アウトリーチのもつ特性について、「サービス／ホスピタリティ」「wants／needs」などの概念を用いながら説明し、アウトリーチは対象者の潜在的なニーズに応えるものであるというメッセージを伝えた。授業の後半では、保育園実践のグループに分かれ、円盤型の紙を用いたアイデア出しを行った。

2024年5月22日

講義担当：佐藤文子先生（本学美術学部准教授／陶磁）

内容：障害者芸術活動支援事業について

障害者芸術活動支援事業および「あいちアール・ブリュット」での出前講座について紹介していただいた。障害者支援施設で利用者の方と一緒に制作した作品を見ながら、支援事業において気を付けている点や難しい点などを学んだ。後半には、陶板への絵付け体験を行い、受講生がアウトリーチにおける対象者の目線を経験する良い機会となった。

2024年6月5日

ゲスト講師：丹下聡子先生（フルート奏者／博士（音楽）／保育士）

内容：レイモンド橋本保育園での音楽あそび実践例

丹下先生が勤務先の保育園で実践されている「音楽あそび」について、保育所保育指針における位置づけ、実践内容についてコンサート時の動画を用いながら説明していただいた。受講生は子供の反応や年齢に応じたアプローチ方法を知ること、アウトリーチの対象者に関する具体的なイメージを抱くことができた。

2024年6月12日

講義担当：三木隆二郎

内容：第一線音楽家が考えるアウトリーチとは

『TAN アウトリーチハンドブック』に掲載される演奏家へのインタビューから、音楽家がアウトリーチを行う意味を取り上げるとともに、事前課題として同書を読んだ受講生からのコメントを紹介した。

【後期】

2024年10月9日

講義担当：三木隆二郎

内容：病院や福祉施設でアウトリーチを初めて行う際の留意点

病院や福祉施設で行うアウトリーチが施設にとってどのような意味をもつのか、医療現場ならではの課題や打合せ上の留意点、企画作りのポイントを説明した。今年度は後期からの受講生も複数見られたため、あらためて「病院アウトリーチプロジェクト」の意義と特性を確認した。

2024年10月16日

講義担当：佐藤直樹

内容：音楽家のためのチラシ作成ワークショップ

アウトリーチに限らず、音楽家が自ら公演チラシを作成する際の基本的な手順や留意点をレクチャーした。「情報を集める、分ける」→「並べる、そろえる」→「調子をつける」というプロセスの原則を理解することができ、音楽の受講生にとって大変学びの多い時間となった。

2024年10月23日

ゲスト講師：石原慎先生（藤田医科大学医学部教授）

内容：藤田医科大学病院について

「病院」という場についての理解を深めるために例年実施する講座である。本プロジェクトの実践先の一つである、藤田医科大学で教鞭をとる石原先生より、藤田医科大学病院の理念と特色についてお話しいただき、同病院が重視する「ホスピタリティ」の概念について解説していただいた。

2024年12月11日

講義担当：三木隆二郎

内容：あなたは社会保障のことをどのくらい知っていますか？

大学院修了後に音楽家として活動していく受講生に向けて、社会保障制度の基本について説明した。今年度は大学院2年の受講生が例年より多かったこともあり、「自分事として考えたい」「よく理解する必要があると思った」といったコメントが寄せられた。

2025年1月15日

ゲスト講師：石川貴憲さん（サクソフォン奏者）

内容：福祉施設での演奏活動

長久手市文化の家フランチャイズアーティストとしての経験などをもとに、障害者施設、高齢者施設でのアウトリーチ活動について紹介し、演奏者のレパートリーと対象者のニーズの両方に合うプログラム作りのポイントを解説していただいた。

2025年1月29日

ゲスト講師：神谷幸宏先生（愛知県立大学情報科学部教授／ICTテクノポリス研究所長）

内容：データをめぐる状況、研究の最新動向

昨年度に引き続き、神谷先生の専門分野（データ解析）と音楽との接点についてお話いただいた。研究者・表現者としてオープンマインドであることの必要性を伝えられるとともに、今年度新たに行った楽器の音の解析結果から、「音色」と包絡線との関連性について指摘され、受講生の関心を大いに引いていた。



2024年5月22日 授業の様子
佐藤文子先生（本学美術学部准教授／陶磁）
による講義



2024年5月29日 授業の様子
北保育園とZoomでの打ち合わせ



2024年6月5日 授業の様子
丹下聡子先生（フルーツ奏者／博士（音楽）／
保育士）による講義



2024年6月12日 授業の様子
スーパーバイザーによる講義



2024年7月10日 授業の様子
実践振り返りの様子



2024年10月16日 授業の様子
プロジェクト副代表による
チラシ作成ワークショップ



2024年10月23日 授業の様子
石原慎先生（藤田医科大学医学部教授）
による講義



2024年10月23日 授業の様子
10月31日実施チームのランスルー



2024年11月27日 授業の様子
企画会議の様子



2025年1月8日 授業の様子
2月28日実施チームのランスルー



2025年1月15日 授業の様子
石川貴憲さん（サクソフォン奏者）による
講義



2025年1月29日 授業の様子
神谷幸宏先生（愛知県立大学情報科学部教授
／ICTテクノポリス研究所長）による講義

4. 東部保育園へのアウトリーチ実施

倉橋祐佳里

「病院アウトリーチプロジェクト」では、初年度から継続して尾張旭市立東部保育園でのアウトリーチを行っている。2024 年度は、1 チーム、受講生 3 名が 6 月 26 日に乳児～年少、年中、年長の 3 回にわたってアウトリーチを実施した。

日時 2024 年 6 月 26 日（水）10:00～11:30

ねらい 多様な表現を通して、園児が自身の声で表現する楽しさや音楽の新しい発見や気づきを大切にしてもらう

出演者 永田佳暖（ソプラノ）、姫田美優（ソプラノ）、奥洞ありさ（ピアノ）

演奏曲 A. アダン：歌劇《トレアドール》より〈ああ、お母さん聞いて〉による変奏曲

W. A. モーツァルト：きらきら星変奏曲

G. ロッシーニ：猫の二重唱

I. バーリン：ミュージカル《アニーよ銃をとれ》より“Anything you can do I can do better”

L. バーンスタイン：ミュージカル《ピーターパン》より“Dream with me”

メンター 倉橋祐佳里

評価者 安原雅之、倉橋祐佳里

評価者所感 ミュージカル調のよく練られたプログラムであった。魔法や猫など、子どもたちが興味を持つ題材を選んだことで、どの年齢の子どもたちも飽きることなく、楽しんで演奏を聴くことができていた。終演後には出演者の真似をして歌を歌う子どももおり、ねらいを十分に達成することができた。



5. 北保育園へのアウトリーチ実施

佐藤杏奈

「病院アウトリーチプロジェクト」では、昨年度から継続して武豊町北保育園でのアウトリーチを行った。今年度は対象年齢を分け、6月18日、7月2日の2日にわたり、2チームがアウトリーチを実施した。

① Aチーム

日時 2024年6月18日(火)

9:30～9:50、9:55～10:15、10:20～10:40、10:45～11:05(4回公演)

ねらい それぞれの楽器のキャラクターや音色の違いを知ってもらい、音楽の面白さを感じてもらう

出演者 加藤愛梨(ピアノ)、狩野将輝(パーカッション) 小谷由里香(ユーフォニアム)、高橋喜仁(トロンボーン)

演奏曲 L. アンダーソン: シンコペーテッド・クロック

F. ショパン: 練習曲 Op. 10-1

C. サン=サーンス: 《動物の謝肉祭》より〈象〉〈白鳥〉〈フィナーレ〉

メンター 佐藤杏奈

評価者 七條めぐみ、中村由加里

評価者所感 それぞれの楽器の違いやキャラクターを、視覚的要素も用いて伝えることができた。音色を聴いて動物を当てるクイズでは、音を聴いてイメージをするという点での音楽の面白さを、園児だけではなく保育士の皆さんにも実感していただけた。演奏者が音楽を楽しみながら楽器を演奏している様子は、楽器をやってみたいという興味にもつなげることができたのではないかと思う。



② B チーム

日時 2024年7月2日(火)

9:30～9:50、9:55～10:15、10:20～10:40、10:45～11:05(4回公演)

ねらい クラシック音楽に親しみを持ち、印象深い音楽体験を創造する。

出演者 市原風太(ピアノ)、瀬戸口祐也(バリトン)、山下菜々(フルート)

演奏曲 F. ショパン:ワルツ Op. 34-3「猫のワルツ」

G. ビゼー:《アルルの女》より〈メヌエット〉

F. シューベルト:歌曲集《美しき水車小屋の娘》Op. 25より 11. Mein!

W.A. モーツァルト:歌劇《魔笛》より「私は鳥刺し」

メンター 倉橋祐佳里

評価者 七條めぐみ、倉橋祐佳里、佐藤杏奈

評価者所感 童謡などあえて分かりやすいものではなく、クラシック音楽で構成されたプログラムだったが、子どもたちが自然体で音楽を楽しんでおり、「クラシック音楽に親しみを持つ」という点が達成されていた。またフルートの音の出し方をペットボトルを用いてすることで、身近なものから音を出すことができるのだと園児たちからは驚きの表情も見られた。



6. てとろ保育園へのアウトリーチ実施

中村由加里

2024 年度は昨年度までの実施先の他に、てとろ北保育園、てとろ大永寺保育園、ALL4KIDS ナーサリースクール長久手の3園が加わった。てとろ北保育園、てとろ大永寺保育園での実施は7月12日、7月29日の計2日にわたり、それぞれ対象年齢を分けて1日に数回のアウトリーチを行った。

① てとろ北保育園（長久手市）

日時 2024年7月12日（金）

10:00～10:20、10:30～10:50、11:00～11:20（3回公演）

ねらい 音楽のもつ要素に注目して、その面白さを知ってもらう

出演者 桑野友里（ピアノ）、三島加蓮（ピアノ）

演奏曲 A. メンケン：アンダー・ザ・シー

W.A. モーツァルト：トルコ行進曲

W.A. モーツァルト＝F.サイ：トルコ行進曲“ジャズ”

中田喜直：《四季》より〈ながい雨の日と、やがて夏に〉

V. モンティ：チャルダッシュ

メンター 中村由加里

評価者 中村由加里、佐藤杏奈、安原雅之

評価者所感 ピアノ連弾による演奏が、保育園にあるグランドピアノと実施空間を心地よい響きで包んだ。ピアノの他にトイピアノや鍵盤ハーモニカなどを使用し、子どもたちの興味を惹きつけた。長く一緒に組んでいるペアだからこその仲の良さ、雰囲気、阿吽の呼吸が進行においても自然な流れを作り出した。また、実施後に園長先生



より、普段落ち着いていられない子どもたちが、音楽に吸い寄せられるかのように集中していた姿に驚き、音楽の力を改めて実感したとの感想をいただいた。

② てとろ大永寺保育園（名古屋市守山区）

日時 2024年7月29日（月）

9:45～10:05、10:10～10:30、10:35～10:55、11:00～11:20（4回公演）

ねらい クラリネットの魅力を知ってもらう

出演者 岡田愛音（クラリネット）、樋口杏奈（クラリネット）、関志帆（ピアノ）

演奏曲 S. ジョップリン：エンターティナー

G. ガーシュウィン＝M. マンガーニ：「パリのアメリカ人」によるブルース
かえるの歌

きらきら星

G. ボッテシーニ：クラリネットとストリングスのための二重奏

メンター 中村由加里

評価者 中村由加里、安原雅之

評価者所感 クラリネットの特徴をわかりやすく伝えた上で、さらに5種類のクラリネットを吹き分けることで、子ども達の興味を引き出し、楽器の魅力を支えることができた。また、子ども目線に立った言葉の表現や曲、衣装の選択が、演奏だけでなく奏者への親近感や興味へと繋がった。アウトリーチ後には、子ども達が感性にあふれた“クラリネット”の絵を描いたことや、「ハートの音がした」「クラリネットがきらきらしていた」などの会話が飛び交ったとのご報告をいただいた。



7. ALL4KIDS ナーサリースクール長久手へのアウトリーチ実施

中村由加里

本項では、新たな実施先として加わった ALL4KIDS ナーサリースクール長久手でのアウトリーチについて報告する。7月16日に行われたアウトリーチでは、1チームが対象年齢別に2回の公演を行った。

日時 2024年7月16日(火)

9:45~10:05、10:10~10:35(2回公演)

ねらい 絵本から聴こえる「音」を楽しもう!

出演者 木村純季(バストロンボーン)、佐伯昌恭(バリトン)、安達莉子(ピアノ)

演奏曲 J. ドット: ミッキーマウスマーチ

R. ロジャーズ: ひとりぼっちの羊飼

G. ヴォルフ: 彼は来た

C. サンサーンス: 《動物の謝肉祭》より〈ライオンの行進〉

F. ショパン: 前奏曲第15番〈雨だれ〉

きらきら星

メンター 中村由加里

評価者 中村由加里、三木隆二郎、生田創

評価者所感 「森のオーケストラ」の絵本を読みながら、音を感じながら子どもたちの想像を膨らませた。トロンボーンと風船を使って音の振動を感じるアクティビティでは、子どもたちが不思議そうに風船を触る様子、風船が震えて驚いたり、喜んだりする様子がうかがえた。絵本と音楽を両立させるプログラムはとても難しいが、絵本の世界観と、音への集中どちらの存在を消すことなく、「聴く」よりも前段階の、音を「楽しむ」という狙いが十分に果たすことができた。



8. 藤田医科大学病院へのアウトリーチ実施

中村由加里

初年度から実施していた藤田医科大学病院での院内コンサートは、コロナ禍による一時中断を経て、昨年度「フジタモール」横のイベントスペースにて再開することとなった。今年度は、「フジタモール」での演奏に加え、B棟ホスピタルパサージュでの演奏が可能となり、病院にとってより日常の空間に音楽を届けることとなった。

① Aチーム

日時 2024年10月31日(土) 11:00~12:00

会場 フジタモール横イベントスペース

ねらい 華々しさと暖かさのある音楽を通して、グッとくるコンサートをお届けする

出演者 小谷由里香(ユーフォニアム)、加藤愛梨(ピアノ)

演奏曲 山本裕之:《六花》より〈第1曲〉/秋の童謡メドレー

F. リスト: ラ・カンパネラ/P. スパーク: Song for Ina

J. B. アーバン=伊藤康英:「ヴェニスの謝肉祭」による変奏曲

アイルランド民謡: ロンドンデリーの歌

メンター 倉橋祐佳里、佐藤杏奈、中村由加里

評価者 倉橋祐佳里、七條めぐみ

評価者所感 奏者の柔らかい雰囲気と、楽器それぞれの魅力をわかりやすく伝える工夫によって会場全体が暖まった。また、プログラムの緩急や演奏におけるアグレッシブで真剣な表情が聴く人の心を掴み、頷きながらじっくり演奏を楽しむ様子や圧倒されて奏者に視線が釘づけになっている様子がみられた。



② Bチーム

日時 2025年1月17日(金) 10:30~11:15

会場 B棟ホスピタルパサージュ

ねらい 日常から離れた非現実的空間を目指す

出演者 瀬戸口祐也(バリトン)、市原風太(ピアノ)

演奏曲 L. v. ベートーヴェン：くちづけ／君を愛す

H. ヴォルフ：散歩／尽きることのない愛／あばよ

F. ショパン：アンダンテスピアナートと華麗なる大ポロネーズ

武満徹：小さな空

赤とんぼ

メンター 中村由加里

評価者 中村由加里、倉橋祐佳里、安原雅之

評価者所感 ドイツ歌曲や、おそらく対象者が普段触れることがないであろう曲が多かったが、演奏者が曲の背景や曲に対する想いを語り、それに伴った演奏と表現をすることによって、聴く人が徐々に演奏者の世界に入り込んでいく様子がみられた。人が多く行き交う場所での演奏であったが、演奏中は集中力が途切れることがなかった。演奏を聞いて涙を流す姿も見られ、まさに音楽が人の心を動かす瞬間がみられた。



③ Cチーム

日時 2024年1月17日(金) 11:15~12:00

会場 B棟ホスピタルパサージュ

ねらい 映画音楽を中心に、心揺さぶるワクワクした音楽をお届けする。

出演者 小谷由里香(ユーフォニアム)、木村純季(バストロンボーン)、安達莉子(ピアノ)、奥洞ありさ(ピアノ)

演奏曲 J. ハーウィッツ:《ラ・ラ・ランド》より“Another Day of Sun”

坂本九:見上げてごらん夜の星を

ピアソラ:リベルタンゴ

H. アーレン:《オズの魔法使い》より“Over the rainbow”

L. バーンスタイン=木村純季:《ウエストサイドストーリー》メドレー

坂本九:上を向いて歩こう

メンター 倉橋祐佳里

評価者 倉橋祐佳里、中村由加里、安原雅之

評価者所感 奏者4人ともに柔らかな雰囲気ですべて患者さんに語りかけることができ、構えることなく聴ける雰囲気作りができていた。また、それぞれの楽器の特徴が活かされるように編曲されたことで、曲の聴きどころがわかりやすく、より華やかな演奏となった。リハーサル後に、コンサートが始まるまでじっと待っている患者さんに向けて、咄嗟の判断で演奏する柔軟さは見事であった。



④ D チーム

日時 2025年2月28日(金) 10:30~11:15

会場 B棟ホスピタルパサージュ

ねらい 幸せホルモンが感じられて日常を忘れられるコンサート

出演者 篠原智香(ヴァイオリン)、高東典央(ヴァイオリン)、石川芽莉(ヴィオラ)、窪田翔椰(チェロ)、樋口杏奈(クラリネット)

演奏曲 J. パッヘルベル: カノン / 久石譲: アシタカとサン

A. ヴィヴァルディ: 《四季》より〈冬〉第2楽章

山田耕筰: 弦楽四重奏曲第2番

F. ショパン: ノクターン Op.9-2

W.A. モーツァルト: クラリネット五重奏曲イ長調 K. 581

Superfly: 愛をこめて花束を

メンター 倉橋祐佳里

評価者 中村由加里、七條めぐみ

評価者所感 弦楽四重奏とクラリネットという編成を活かし、柔らかさのある音色と楽曲によって対象者を癒すことができた。MCでは、言葉を選びながら患者さんへの気持ちをダイレクトに伝えることで、対象者との距離が縮んだ。企画時には、通常のコンサートとアウトリーチコンサートの違いを捉えることに苦戦したが、実践を通して演奏者の心境に変化が見られ、奏者にとっても得るものが大きかったように思う。



⑤ E チーム

日時 2025年2月28日(金) 11:15~12:00

会場 B棟ホスピタルパサージュ

ねらい 多彩な音色で届ける心踊るひとときを通して希望を抱いてもらう

出演者 永田佳暖(ソプラノ)、岡田愛音(クラリネット)、石橋幹鷹(ピアノ)、狩野将輝(パーカッション)

演奏曲 W. ブラウンフェルス: 歌劇《鳥たち》より〈親愛なる皆さん、ようこそ!〉

F. メンデルスゾーン: 《無言歌集》Op. 62より第6番〈春の歌〉

L. アンダーソン: タイプライター

M. グレントワース: ブルース・フォー・ギルバート

A. ショウ: クラリネット協奏曲

山田耕筰: からたちの花

F. ロウ: ミュージカル《マイ・フェア・レディ》より〈踊り明かそう〉

岡野貞一: ふるさと

メンター 中村由加里

評価者 中村由加里、七條めぐみ

評価者所感 珍しい楽器編成であったが、それぞれの楽器の特性やキャラクターを生かしながら絶妙なバランスでまとまりを出すことに成功した。タイプライターや鳥笛など、普段なかなか目にしないものも、対象者を惹きつけていた。他チームの実践を見学し実際の様子を見ることで、プログラムをより良いものにしようと何度も再考したことにより、患者さんに癒しだけでなく、新鮮さや高揚感を届けることができた。



9. 豊田西病院へのアウトリーチ実施

佐藤杏奈

今年度後期は、昨年から継続して単科の精神科病院である豊田西病院で、2チームがアウトリーチを行った。1月27日、1月31日の計2日にわたり、アウトリーチを実施した。

① Aチーム

日時 2025年1月27日（月）10:00～10:45

ねらい 風景や気持ちを一緒に想像することで、出演者と患者さんの心をつなぐ

出演者 桑野友里（ピアノ）、三島加蓮（ピアノ）

演奏曲 レ・フレール：On y va！／中田喜直：《日本の四季》

岡野貞一：ふるさと

E. モリコーネ：「ニュー・シネマ・パラダイス」メドレー

G. ガーシュウィン：アイ・ゴット・リズム

メンター 佐藤杏奈

評価者 七條めぐみ、佐藤杏奈

評価者所感 自身が撮影した故郷の写真を使用して曲の解説をしたり、小物打楽器の使用や、鍵盤ハーモニカで練り歩くなど、バリエーション豊かなプログラムであった。映像を使うことでイメージが伝わりやすく、その後の質問コーナーでは患者さん自身が故郷や昔話を思い出している様子だった。演者のメッセージがしっかりと届いた、和やかな時間となった。



② Bチーム

日時 2025年1月31日（金）10:00～10:45

ねらい 心に寄り添う音楽を通して、
聴いている方と私たちの心が共鳴するコンサートを届ける

出演者 加藤愛梨（ピアノ）、佐伯昌恭（バリトン）
谷口奈々恵（ソプラノ）、山下菜々（フルート）

演奏曲 坂本九：上を向いて歩こう
武満徹：うたうだけ
G. フォーレ：シチリアーノ
森山直太朗：花
S. ラフマニノフ：リラの花
三木たかし：心の瞳
坂本九：見上げてごらん夜の星を

メンター 佐藤杏奈

評価者 佐藤杏奈

評価者所感 豊田西病院を訪れるのが2回目のメンバーもいることで、曲目も患者さんに寄り添った優しい曲目で、落ち着いたコンサートとなった。緊張をしていたようだが、積極的な患者さんからの言葉に救われ、患者さんと演者が一つになっている時間であった。何よりも4人が楽しそうに演奏している姿が印象的だった。質問コーナーの最後には急遽アンコールを演奏し、患者さんも病院関係者の方も喜ばれていた。



10. 大雄会第一病院へのアウトリーチ実施

倉橋祐佳里

今年度初めての実施先として、2025 年 1 月 12 日（日）に一宮市に位置する大雄会第一病院に 1 グループ（弦楽器 4 名、管楽器 1 名）が伺う予定だったが、感染症の拡大により残念ながら中止となった。年度中の延期日程も検討されたが、日程が合わず、来年度以降への持ち越しとなった。なお、実施予定だったグループは、2025 年 2 月 28 日（金）に藤田医科大学病院にて実践を行った¹。

2024 年 12 月 9 日（月）には下見、打ち合わせが実施され、伺う予定だったグループの代表者 2 名とプロジェクトスタッフ 2 名が現地に伺い、総合大雄会病院の前副院長であった井上保介先生、医療法人大雄会広報課の永井様から病院や患者さんの様子、病院理念、近隣環境などについて詳しいお話を伺うことができた。その様子は動画で撮影し、後日授業にて受講生全体に共有した。

¹ 本報告書の 28 ページ、「藤田医科大学病院へのアウトリーチ実施」の項目（D チーム）を参照されたい。

11. アール・ブリュット

安原雅之・石川貴憲

(1) 概要

“アール・ブリュット”とは、画家ジャン・デュビュッフェ Jean Dubuffet(1901-1985)によって考案された用語で、「生の芸術」を意味する。この用語が示すものには、アカデミックな教育を受けずに創作活動を行っている人たちの作品などが含まれるが、近年では、障害者によるアートの代名詞ともなっている。

あいちアール・ブリュットは、「愛知県内の障害のある人の芸術・文化活動を通じて、障害のある方の社会参加と障害への理解が深まり、障害の有無をこえた交流が広がることを目指す活動」（あいちアール・ブリュットのウェブサイトより <http://www.aichi-artbrut.jp>）であり、2014年以降、「あいちアール・ブリュット展」が開催されている。

2024年度には、「あいちアール・ブリュット障害者アーツ展」の期間中に舞台企画のひとつとして「愛知県立芸術大学によるクラシックコンサート」を開催し、また、関連企画として4つの福祉施設における出前コンサートを実践した。いずれも、「病院アウトリーチプロジェクト」がコーディネートを担当した。

(2) あいちアール・ブリュット障害者アーツ展

①メインコンサート

愛知県立芸術大学は、愛知県障害者芸術活動参加促進事業実行委員会からの受託事業として愛知県福祉局福祉部障害福祉課と連携し、あいちアール・ブリュット障害者アーツ展での演奏企画を実施している。

2024年度は、メインコンサートとして、9月13日（金）に「愛知県立芸術大学によるクラシックコンサート」を名古屋市東文化小劇場で開催した。このコンサートは、障害のある方、その親族・支援者などすべての方を対象としたもので、普段はコンサートに行くことを遠慮してしまう方も気軽に本格的な音楽を楽しんでいただけるように配慮し、プログラムが組まれた。開催概要は以下の通りである。

「愛知県立芸術大学によるクラシックコンサート」

日時 2024年9月13日（金）13:00～14:00

会場 名古屋市東文化小劇場

出演者 ふくしーず

石川貴憲（サクソフォン）、菅原拓馬（ピアノ）、山田善久（打楽器）

演奏曲 服部良一：東京ブギウギ、青い山脈
E. シュルホフ：アルトサクソフォンのためのソナタ 第一楽章
服部良一：山寺の和尚さん
E. シュルホフ：アルトサクソフォンのためのソナタ 第二楽章
林伊佐緒：ダンスパーティの夜
E. シュルホフ：アルトサクソフォンのためのソナタ 第三楽章
宇佐秀雄：柳ヶ瀬ブルース
E. シュルホフ：アルトサクソフォンのためのソナタ 第四楽章
服部良一：名古屋ブギウギ、蘇州夜曲

演奏者所感

サクソフォン、ピアノ、打楽器の編成で演奏しました。本格的なクラシック音楽を、身構えず聴くことができるプログラムを考えました。台本を綿密に決めていましたが、手話通訳や要約筆記のスタッフの方の機転のおかげで、お客さんとの即興的なやり取りも可能でした。最後には暖かい拍手と声援をいただき、企画を歓迎していただけたと感じました。今後はさらに集客面の工夫をできればと思います。(石川貴憲)

②福祉施設でのコンサート

愛知県障害者芸術活動参加促進事業実行委員会からの受託事業費を始め、愛芸アシスト基金及び大学運営費交付金によって実施している。

◆社会福祉法人アパティア福祉会 生活介護事業所パレット

日時 2024年12月6日(金) 14:15～14:45

出演者 秋口響哉(トロンボーン)、小谷由里香(ユーフォニアム)、
早野舞花(トランペット)

演奏曲 草川信：夕焼け小焼け～演奏会用小品～
久石譲：さんぽ
G. F. ヘンデル：《水上の音楽》より「ホーンパイプ」
P. マスカーニ：《カヴァレリア・ルスティカーナ》より間奏曲
E. プーランク：ホルン、トランペット、トロンボーンのためのソナタより第一楽章
岡田実音：ハピネス
もろびとこぞりて／牧人ひつじを／神の御子は／もみの木／きよしこの夜
J. シュトラウス1世：ラデツキー行進曲

演奏者所感 音楽のジャンルに関係なく手拍子で参加してくれたり、MCでは相槌を打

ってくれる人もいたり、とても明るい様子だった。演奏中は様々な音楽に興味を持って聞いている様子で、演奏会を楽しんでくれているように感じられた。



◆社会福祉法人愛恵協会 多機能事業所てんじん

日時 2024年12月10日(火) 13:30~14:00

出演者 中村まり(フルート)、満吉香苗(フルート)、岡田薫子(フルート)

演奏曲 P. チャイコフスキー:《くるみ割り人形》より〈序曲〉

W. A. モーツァルト:アイネ・クライネ・ナハトムジークより(抜粋)

A. ドヴォルザーク:《スラヴ舞曲》第10番

G. ビゼー:《カルメン第1組曲》より〈アラゴネーズ〉

P. チャイコフスキー:《くるみ割り人形》より〈行進曲〉〈金平糖の踊り〉〈葦笛の踊り〉

岡野貞一:ふるさと

Takahiro Kimura: Have a nice Christmas!!!

演奏者所感 クリスマス会の催しのひとつとして、クリスマスイブの物語である《くるみ割り人形》の曲を中心に、紙芝居を使いながら演奏した。利用者の方々に親しみを持ってもらおうと、途中で演奏者が各自で作成したイラストを挟みながら物語を紹介した。この時や、《ふるさと》を演奏した際には拍手をいただいたり、演奏と一緒に歌い、また真剣に音楽を聴いて下さり、最後は温かな雰囲気の中演奏を終えることができた。



◆社会福祉法人愛知県厚生事業団 愛厚藤川の里

日時 2024年12月24日(火) 14:00~14:30

出演者 奥村心太郎(テノール)、椎屋冴彩(ソプラノ)、倉橋祐佳里(ピアノ)

演奏曲 G. ヴェルディ: 乾杯の歌

J. ブラームス: Wir wandelten (われらはさまよい歩いた)

小林秀雄: 落葉松

R. シューマン: トロイメライ

A. メンケン: ホール・ニュー・ワールド

J. マークス: 赤鼻のトナカイ

瀧廉太郎: お正月

演奏者所感

前半はクラシック曲、後半はクリスマス曲を中心に演奏した。演奏に合わせて頷いたり、じっと見入るなど、真剣に音楽と向き合う利用者さんの姿が見られた。後日届いたお手紙では、「大きな声でびっくり!」「楽しかったのでまた来てください」などの感想をいただいた。



◆社会福祉法人憩の郷 地域活動支援センターおおぶ

日時 2025年3月5日(水) 14:30~15:00

出演者 滑川敬一(クラリネット)、高間健吾(クラリネット)、岩井遥(クラリネット)

演奏曲 P. チャイコフスキー:《くるみ割り人形》より〈花のワルツ〉

G. ルーウィン: View of the blues

久石譲(M. Suzuki 編): ジブリメドレー

ポーランド民謡: クラリネット・ポルカ

星野源: ドラえもん

近藤浩治: スーパーマリオメドレー

菅野よう子: 花は咲く

演奏者所感

演奏中もクラリネットの豆知識を話している時も、集中して耳を傾けてくださった。「クラリネット・ポルカ」では手拍子を叩いてくださる場面や、「ドラえもん」「花は咲く」では口ずさんでくださる場面があり、とても和やかな演奏会となった。



振り返り

1. 「病院アウトリーチプロジェクト」8年度目の振り返り

スーパーバイザー

三木隆二郎

2017年度より始められた当プロジェクトの通年の授業の流れは、前期に保育園児の目の前で演奏するという、(ほとんどの院生にとって) アウトリーチ初体験をしてから、後期には実際に病院に行き患者さんの前で演奏することで、良質な「病院アウトリーチ」を体験的に身につけるという構成となっている。昨年度からはコロナ禍の影響を受けず、保育園も病院もアウトリーチ経験を対面で積重ねることが出来ている。

保育園では、毎年行っている尾張旭市の東部保育園と、昨年から訪問を始めた武豊北保育園に加え、今年も新たに三つの保育園を訪問先に加えることが出来た。

また病院では提携関係にある藤田医科大学の附属病院にあるフジタモール横イベントスペースで去年、久々に演奏することが出来たが、今年はその以外に病院内のパサージュという、より患者に近い場所でも演奏をする事が出来た。

(1) 上期の教育内容の振り返り

スーパーバイザーとして行った座学の4月では「アウトリーチことはじめ」として筆者が設立に関わった東京にあるNPO トリトン・アーツ・ネットワーク (TAN) の事例を通してアウトリーチとはどのようなものかを説明した。5月の授業ではアウトリーチの中でも保育園に特化して説明した。6月の授業では自分が著した『TAN アウトリーチ・ハンドブック』を使い、実績ある演奏家インタビューを読んだ上で、気になったコメントや気づきを書き出すという課題を提出した上で、第一線音楽家が考えるアウトリーチとは何かを説明した。

前期の院生18名の内訳は、鍵盤楽器7名、管打楽器7名(ユーフォニアム1、トロンボーン2、クラリネット2、フルート1、パーカッション1)、声楽4名(ソプラノ2、バリトン2)であったが、特筆すべきは昨年度にも受講した院生が18名中7名を占めたことである。保育園で演奏するチーム編成は期初にメンターが受講生と個別面談をした上で決められるが、通常とは異なる室内楽編成で臨むことになる。通常のレパートリーから選曲出来るチームもあるが、「トロンボーン、ユーフォニアム、パーカッション、ピアノ」といったチームでは編曲をしたり、「絵本と音」といった創意工夫にあふれた構成に必要な選曲や進行をすることが求められる。その為、各チームとも企画を練り上げるのに大変苦勞をするが、逆に普段顔を合せない楽器専攻の院生同士が対話してアウトリーチを作り上げるのは貴重な機会になっているという受講生から

のフィードバックもある。また「普段は落ち着いていられなかったり、障害がある子どもも多くいるのに、見違えるくらい集中して聞き入っていた」という保育士からのフィードバックをもらいアウトリーチの意義を強く感じたという受講生もいた。また園児だからといって迎合せずに自分達ならではの選曲をして心を込めて演奏することで、子どもたちが真剣に向き合い受入れてくれることを体験して、音楽の力を学んだという受講生もいた。

アウトリーチで最も大事なことは受入先と共通目標（Shared Goal）を設定した上で実践して振り返る、というPDCAサイクルを回すことである。その点で今期、新たに加わった保育園の中には独自の教育哲学で運営しているところもあり、先方とのShared Goal作りに課題（例：園児向け活動で隣の部屋から英語の音楽が流れてくる）も残った。先方が私共のアウトリーチ初体験の場合、来期からもう少し丁寧に事前打合せをしていきたい。

（2）下期の教育内容の振り返り

スーパーバイザーの講義では「医療福祉施設でのアウトリーチについて」および「アーティストでも知っておかなければいけない社会保障」と題して2回のレクチャーを行った。

病院アウトリーチでも病院とのShared Goalが大事である。そうでないと演奏者の独りよがりや弾きたい曲だけ弾いてきて、聴き手の患者や受入れて下さる病院の意図が必ずしも反映されないことも考えられるからである。その点では藤田医科大病院と豊田西病院（精神科単科）の間では先方担当者も受入実績を重ねてきたので、当方との共通理解も深まり、先方にとっても満足度が高いからこそまた実践するという好循環が確立している。藤田医科大病院の受入窓口の先生は毎年、講義時間の事前レクチャーで病院の考えを丁寧に説明する授業を設けている。豊田西病院からは、演奏には聴いている患者の生活に“心地よい刺激”を与えたいという目標が提示されて受講生もその為のプログラムを考えている。

後期の院生21名の内訳は、鍵盤楽器7名、管打楽器6名（バストロンボーン1、ユーフォニアム1、パーカッション1、フルート1、クラリネット2）弦楽器4名（ヴァイオリン2、ヴィオラ1、チェロ1）、声楽4名（ソプラノ2、バリトン2）で、6回のアウトリーチの実践を行った。

藤田医科大病院では、授業として元々3回計画していたが、これ以外に藤田医科大病院からの気候のよい時期に実施して欲しいという依頼で、ユーフォニアムとピアノによるアウトリーチも行った。また大雄会病院で計画したアウトリーチの実施日が近くなって感染症蔓延の為に中止されたことにより藤田医科大病院に変更された。

今期は後期から受講するチームもあったが、過去の実践の様子を収録した動画リンクが整備されてきたので、授業の蓄積が役に立って更に質感のある実践が出来た。

振り返り

2. メンターとしての振り返り

中村由加里・倉橋祐佳里・佐藤杏奈

今年度は多くの受講生が履修し、若い音楽家のアウトリーチや社会への関心の高さを実感するとともに、「アウトリーチ」という言葉が浸透していることを再認識した。

前期の保育園アウトリーチでは、どのチームも豊富なアイデアで子供たちに音楽を届けた。受講1年目の学生は、演奏に加えてMCや進行を計画通り進めることや、子ども達とのやりとりに戸惑う様子もみられたが、真摯に向き合っていた。受講2年目の学生は、昨年の経験を生かしてプログラム作りから意欲的に取り組み、状況に応じて冷静かつ柔軟に対応する姿に成長を感じた。後期の病院アウトリーチでは、どのチームのプログラムも対象者の視点に寄り添って考えられており、患者さんだけでなく、そのご家族や施設の関係者など、多くの方に癒しをもたらした。実施後には、「演奏する中で、聴いている方との心の繋がりを感じた」と感想を述べる受講生もあり、実施前と比べて、話す内容や表情が明らかに変化したことが印象的であった。

今年度は人数の多さゆえにチーム数や実施回数が多かったため、さまざまな場所の日常に音楽が入ることによる対象者の変化を間近に感じることもできた。特に、藤田医科大学病院のパスージュでのアウトリーチでは、歩いていた人が足を止めて音楽に聴き入る姿や、涙を流す患者さんの姿を目の当たりにし、その姿に真剣に対峙しようとする受講生の姿もみられた。この経験は、非常に大きなものであったと思う。受講生が本授業で得たことは、アウトリーチ活動に限らず、音楽家として大切なことばかりである。今後もこの経験を糧に、積極的に活動の幅を広げていくことを期待する。

(中村由加里)

今年度は、前期の保育園、後期の病院ともに初めて伺う実施先が多く、受講生にとってもプロジェクトメンバーにとっても多くの新たな学びの機会となった。また、受講生が年々増加する中、メンターが4人体制から3人体制に変化した。受講2年目の学生が1年目の経験を生かし、企画面はもちろん、メンタル面でもチームを引っ張っていく姿がみられた。実際に対象者の前で演奏する経験が、受講生にとって非常に重要な経験になっていると痛感した。

また今年度は美術学部との連携もあり、演奏家がよく直面する悩みであるチラシ作成についての授業をはじめ、他分野からのお話を聞ける機会が多くあったことは、受講生にとって視野を広げる良い機会になったと思う。

学生にとってこのプロジェクトの本番は授業の一環であり、勉強の場でもあるが、本番の機会を受け入れてくださっている保育園や病院にとっては、対象者に少しでも良い機会を、と考え受け入れてくださったものであり、また一つ一つの本番が多くの人の尽力があつての機会である。企画の段階ではまだ自分たちの演奏のことで手一杯にみえた学生からも、実際の本番を通して多くの人の支えがあることと、対象者についてよく考えることの重要性に気づいたという意見が多くみられた。アウトリーチ先と対象者に敬意を持ち、そのうえで自身の伝えたい思いをプログラムや演奏にのせることのできる演奏家がこのプロジェクトを通して育っていつてくれることを祈っている。

(倉橋祐佳里)

今年度よりメンターとして授業に携ることとなり、受講生やメンターの先輩方のアイデア、素晴らしい演奏を目の当たりにし、私自身とても視野が広がった1年となった。前期は武豊町北保育園と、東部保育園、てとろ保育園に行くことができた。どの園もそれぞれに違いや特徴を感じるのと同時に、受講生のアウトリーチもそれぞれのグループによってカラーが出ており、園児たちの素直な反応は受講生たちの心を動かしていた。また、演者側ではなく、客観的な視点でアウトリーチを見ることができ、気づきや学びがたくさんあった。またそれもアウトリーチの面白さだと実感した。

後期は豊田西病院に2度訪れた。どちらの回も患者さんがとても積極的で、演者と一つになるととても和やかな時間であった。訪れたチームは、このプロジェクトを通してずっと2人でやってきた熟練チーム、今回のために初めて集まった初めましてのチームという対照的な2チームで、それぞれに難しさはあったが、コンサート当日にはどちらのチームも結束力が強まっていた。プロジェクトを通してでないで交わる機会のなかったメンバーと一つのコンサートを作り上げることは安易ではなく、コミュニケーションの力や、自分の殻を破ることも必要になってくる。自分に出来ることを探したり、新しい視点に出会えたりするチャンスなのだと、受講生を見て感じた。

アウトリーチは演奏とともに「話す」ことで言葉のサポートを得ながら進めていくので、良い意味でも悪い意味でもその人が何を思っているのかがコンサートよりもオープンに見えるように思う。音楽を通して社会に何ができるのかを考えるきっかけをくれ、自分の原点に立ち返ることができるアウトリーチはとても幸せな活動だと思う。その活動を、たくさんの方に受け入れていただき、広げていくためにも、一緒に作り上げてくださる方がいることの喜びを感じられる演奏家が増えていくと嬉しい。これからもいつも新鮮な言葉を受講生に伝えられるようにしていきたい。

(佐藤杏奈)

振り返り

3. 受講生の振り返り

2024年度は24名の大学院生が「アート・マネジメント」の授業を受講した（前期のみ、後期のみの履修も含む）。以下に、受講生からの振り返りコメントを掲載する。

◎前・後期通じての受講生

「アウトリーチ」とは何だろう？ そんな問いから始まり、2年間の履修を経て、私はアウトリーチが自己と他者の理解を繋ぐ、あたたかな場であることを実感しました。アウトリーチでは、対象者に寄り添ったプログラムを届けることが重要ですが、それだけではなく、自身の専門性や想いが伴ってこそ、本当の意味での交流が生まれるのだと学びました。

また、一方的に音楽を押し付けるのではなく、事前の準備を丁寧に行い、当日は対象者とともに創り上げ、広げていけるプログラムを構築することが大切であると実感しました。当日の実践では、その場にいる方々の心の動きを感じながら、一体感が生まれる瞬間を体験しました。音楽を通して繋がる喜びを得られたことは、何ものにも代えがたい経験となりました。

アウトリーチを学んだことで、音楽をする意義や価値観についても深めることができました。導いてくださる先生方、メンターの皆さまのもと、本学で同じ志を持った仲間と学べた時間はとても貴重な時間でありました。 (声楽領域2年 永田佳暖)

2年間の集大成として臨んだ今回の病院アウトリーチでは、昨年度よりも近い距離で患者様に聴いていただけるということで、どのようなMCや選曲だとすべての患者様に楽しい時間を過ごしてもらえるか、試行錯誤を繰り返しました。私たちのグループは「非日常のワクワク感を演奏と共に感じてもらう」ことをゴールに設定し、映画音楽を中心にしたプログラムと患者様に寄り添うことを一番に考えたMCによって、まだまだ未熟ではありながらも多くの患者様に楽しんでいただくことができました。しかし、どんな方々にも心地よい時間を過ごしてもらう公演を作り上げることの難しさも同時に感じ、卒業後の自身のアウトリーチ活動における大きな課題であると実感しました。まだまだアウトリーチが普及していない故郷北海道で、学んだことを最大限活用し、その一助となれるよう、これからも積極的に活動して参ります。

(鍵盤楽器領域2年 安達莉子)

2年間履修し、今回が院生としての最後の実践となりました。企画作りの初めは、なかなかねらいが定まらず苦労しました。そのため、まずは各々のお気に入りの曲を

挙げることから始めました。そこから自分たちの個性を最大限に発揮しつつ、聴いてくださる方にどう寄り添うべきかを試行錯誤しながら考えましたが、本番ではそれがうまく達成できたのではないかと思います。

一年前の私は人前で話すことが苦手で、最初は台本を一字一句間違えないように覚えてMCをしていました。しかし実践を重ねるごとに、聴いてくださる方との対話を意識する余裕が生まれるようになりました。私以外のメンバーが、お話やアドリブが得意だったこともありましたが、今回の実践では、これまでの中で最も自然体で臨むことができたと感じています。

また、今回のアウトリーチは「演者と聴き手」という関係ではなく、同じ人間として共感できることを、音楽を通じて対話していくという感覚でした。

2年間のアウトリーチの受講を通じて、自分の苦手なことを少し克服できたとともに、音楽の意義を実感することができました。この感覚を忘れないよう、修了後も積極的にアウトリーチ活動に参加し、さらに成長していきたいです。

(鍵盤楽器領域 2年 加藤愛梨)

昨年度に続き2年目の受講でした。後期授業では、豊田西病院でアウトリーチを行いました。私たちのチームは、音楽のイメージを共有できるよう、コンサートのメインプログラムである中田喜直作曲の「日本の四季」に合わせて、スクリーンに四季折々の画像を映しました。ランスルーの時点では曲中に画像を変えて曲想の変化に気づいてもらおうとしていたのですが、画像に気を取られて音楽に意識がいかないという指摘を受け、実践では演奏前に曲の解説と、数枚に絞った自分たちがイメージする写真を見ていただき、演奏中は曲名のみを映すことにしました。情報を絞ったことにより、演奏に集中してもらうことができ、聞く人一人一人がイメージを自分の中でふくらませられるようにできたのではないかと思います。

短い準備期間でしたが、一緒に歌う曲の歌詞カードを配ったり、カエルギロを登場させたり自分たちらしいアウトリーチができたと思います。また、1年目の受講の時と比べるとMCを落ち着いて話せるようになったのが自分の中で成長できたと思える点でした。今後も授業で学んだことを活かし、アウトリーチなどを行ってほしいなと思います。

(鍵盤楽器領域 2年 桑野友里)

昨年度に続けて今年度も通年で受講し、2年間で計4回のアウトリーチを経験しました。音楽にあまり馴染みのない方たちのところに向いていくことは、私たちにとっては貴重な機会であると同時に、あまり今までに経験のないことなので、どう伝えれば良いか悩むことも多くありました。最初の実践では、用意した台本を忠実にな

ぞらえることに意識が向きすぎて、対象者との対話が上手くいかず苦戦したこともありましたが、経験を重ねていくにつれて、その場に合わせた話し方など、臨機応変に対応する力がついたと感じています。特に今年度後期の豊田西病院での実践では、台本は用意せず、伝えたいポイントだけ押さえておくことで、患者さんとのコミュニケーションも円滑に行うことができたのではないかと感じています。私は「内気な自分を変えたい」という理由でこの授業を受講しましたが、以前よりも人の前に出て話すことに自信を持てるようになったと感じています。まだまだ経験は少ないですが、授業で学んだことを活かしてこれからも色々な場所に音楽を届けていきたいです。

(鍵盤楽器領域 2年 三島加蓮)

病院アウトリーチに行って、この授業を受けてよかったと思える時間でした。ランスルーをやった時に、内容は良いけれど全体を通して少しお客さんとの距離が遠い気がする、とアドバイスを頂き、MCや自己紹介を工夫して見直しました。本番ではお客さんが私たちの話に見えたり共感してくれている様子が見れて、演奏をしっかりとやるのはもちろんですが、こちらから聞いてくれる人に対して親しみを持ちやすい話をしたり雰囲気を作ることもとても大切なことだと感じました。私は前期後期どちらもこの授業を履修しましたが、全体を通して、想像以上にアウトリーチの魅力を感じ、色々なことを学びました。今後もまた機会がある時には、授業でやったことを活かしてアウトリーチを行いたいです。(管・打楽器領域 2年 樋口杏奈)

今年度は藤田医科大学病院で2回の演奏の機会をいただきました。患者さんが書いてくださったアンケートにはたくさんの学びがありました。「音量が大きく体に響いてきて痛みを感じた」という感想にはハッとさせられました。大学病院には大きな病気と日々向き合っている患者さんがいるんだと改めて認識するきっかけになりました。より心地良く聞いていただくための配慮をしていかなければならないなと思いました。

また、「心が癒されました」「昔よく聞いていた曲を聞けて感動した」という感想もいただきました。もちろんホスピタルコンサート当日に向けて、患者さんに楽しんでいただけるよう演奏曲や演出を練り上げてきましたが、実際にその言葉を目にして、自分の演奏やMC誰かの癒しになったんだということが感慨深かったです。

(管・打楽器領域 2年 小谷由里香)

藤田医科大学病院でのアウトリーチを通して、聴き手に寄り添う音楽の在り方を深く考えることができました。私たちは、ピアノ、ソプラノ、クラリネット、打楽器の編成で演奏を行い、それぞれの楽器の魅力が引き立つような選曲を意識しました。今

回のねらいは「多彩な音色で心躍るひとときを届けること」でした。そのため、明るく親しみやすい曲やリズムカルな曲を取り入れ、楽器ごとの個性を活かした演奏を心がけました。

本番では、お客さんが笑顔で聴いてくださり、あたたかい拍手をいただくことができました。演奏後のアンケートでも「楽しかった」といった感想をいただき、私たちのねらいを達成できたと感じています。今回の経験を通して、音楽が持つ力を改めて実感するとともに、聴き手の心に響く表現の大切さを学びました。

今後の演奏活動でも、楽器の持ち味を活かしながら、多彩な音色で人々の心を動かす音楽を届けられるよう努めていきたいと思えます。

(管・打楽器領域 2年 狩野将輝)

初めての病院アウトリーチということもあり、本番前はだいぶ緊張していましたが、始まってからのお客さんたちの反応や拍手が本当に暖かくて、だんだんと緊張もほぐれリラックスして臨むことができたと思います。

今回のアウトリーチでは、自分たちの演奏にお客さんが反応してくれることへの幸せを強く感じたように思えます。演奏後、お客さんの「おお〜」という反応があったり、大きな拍手があったりすると、自分の好きな音楽の魅力がちゃんと伝わっているんだなという気持ちになりました。

反省点はやはり MC です。まだまだ人に聞いてもらおうという気持ちを持って喋れていないように思えるので、気をつけていきたいです。(声楽領域 1年 佐伯昌恭)

病院での演奏は、前期の保育園での活動とはまた異なる難しさがありました。保育園では子どもたちの反応がダイレクトに伝わり、プログラムも視覚的・身体的な要素を取り入れることで関心を引くことができました。一方、病院では聴衆の年齢層が幅広く、また体調や環境によって演奏の受け取られ方が大きく異なるため、どのようにプログラムを構成すべきか慎重に考える必要があります。

そこで、私たちが研究している分野の作品を取り入れつつ、耳馴染みのある曲も組み合わせることで、専門性を活かしながら幅広い層の方々に楽しんでいただけるプログラムを目指しました。実際に演奏してみると、静かに耳を傾ける方、涙を流される方、手拍子で応えてくださる方など、さまざまな反応があり、それぞれの方が自分なりの形で音楽を受け取っていることを実感しました。

また、病院という空間では、音の大きさや響き方にも配慮が必要でした。ホールや保育園とは異なり、限られたスペースの中で、適切な音量やテンポを意識しながら演奏することが求められます。こうした経験を通じて、演奏する場所や聴衆に応じたア

プローチの重要性を改めて学ぶことができました。

今回のアウトリーチを通じて、音楽には人の心に寄り添う力があることを再認識しました。聴いてくださる方々との間に生まれる温かい空気を感じながら演奏できたことは、大きな財産となりました。今後も、さまざまな場での演奏経験を積み重ね、より多くの方々に音楽を届けられるよう努めていきたいです。

(声楽領域 1年 瀬戸口祐也)

2024年病院アウトリーチプロジェクトの一環として行われたホスピタルコンサート、またそのための講義は、自身にとって心に残る素晴らしい経験でした。藤田医科大学B棟パサージュで行われたホスピタルコンサートでは、バリトンの瀬戸口祐也くんと共演し、観客の皆様には非日常性を少しでも感じていただくために、プログラムや構成を一から考えました。当日は、特にショパンやヴォルフの「あばよ」、また日本語の歌曲「小さな空」はお客様に非常に人気がありました。一方で、ドイツ語の歌曲が中心のプログラムでは、その言葉の壁を感じながら、いかにその魅力を伝えるかが大きな挑戦でした。病院という特別な環境の中で、コンサートにお越しくくださった方々だけでなく、通行されている皆様が音楽に集中してくださり、心を通わせる瞬間を共有できたことは、非常に貴重な体験でした。この機会を通じて、音楽が持つ特別な力を再認識することができました。

(鍵盤楽器領域 1年 市原風太)

元々アウトリーチに興味があり、1年間受講させていただきました。前期は魔法使いをテーマに、尾張旭市立東部保育園でアウトリーチを行いました。MCは子どもたちが理解できる易しい言葉を選び、反応を拾いながら会話をするように進める必要があること、また小道具など、子どもたちの目を惹きつけるような様々な工夫も大切だということ学びました。

後期は、藤田医科大学病院に伺い、ピアノ連弾、バストロンボーンとユーフォニアムという珍しい編成で、映画音楽を中心に演奏させていただきました。言葉選びや選曲において気を遣わなければならないことが多く、前期とはまた違った難しさを感じました。演奏後に、感動しましたと直接お声掛けいただけただけことがとても嬉しく、あたたかい気持ちになりました。

1年間を通して、本番だけでなく準備やランスルーの過程でたくさん学ぶことができました。この経験を今後の音楽活動に活かしていけたらと思います。

(鍵盤楽器領域 1年 奥洞ありさ)

初めて病院でアウトリーチをやって、初めての編成でどう喜んでもらえるかすごく悩んだ結果、色々な音色を楽しんでもらったり、非日常な感じで病院に来ている中楽しんでもらうという風にプログラムを組んで、アンケートを見ると考え通り喜んで頂けたようでとても安心しました。

お客さんに寄り添う、場所にあった、自分たちが伝えたいこと、この編成で出来る事を全て 100 パーセントすることは難しいなあ今回思いました。

今回は幼稚園のアウトリーチに比べて、言葉遣いや伝え方には苦労する事はなくて、演奏を通してお客さんと繋がる事が出来たのが嬉しかったなと思います。こういう場では、お客さんがどういう音楽を求めているのか、綺麗で静かな音楽がいいのか、今回みたいな楽しい曲も聞きたいのか、ポップスとか聞き馴染みのある曲の方がいいのかなど、色々な意見がもっと知りたいなと思いました。

(管・打楽器領域 1 年 岡田愛音)

◎前期のみ／後期のみの受講生

私が授業の中で印象的だったと感じたのは、「このアウトリーチを通して、園児たちにどうなってもらうことが目標なのか」ということを設定することの重要性です。ただ「園児たちが盛り上がりそうな曲」というのではなく、目標を設定して、それを達成するためにはどんな曲を演奏するのがふさわしいかを話し合っていくことで、だんだんとよいプログラムが出来上がっていった気がします。また、「園児たちに迎合しすぎない」「私たちにしかできない演奏を」というのも、非常にヒントになりました。園児たちに親しみのある曲だけでなく、自分の普段のレパートリーの中から、本当にふさわしいと思うものを選んでいいのだということも、勉強になりました。

他のグループのランスルーを見る中で、歌は楽器と違って見た目には新鮮さはなく、園児たちも普段から歌っているので、やっていることの凄さが視覚的に分かりづらそうだと心配していました。しかし、公演が終わった後何人かの園児たちが私たちの真似をして高い声を出したり、猫の鳴きまねをしたりしているのが聞こえて、なにか「おもしろい」と感じ取ってもらえたのではないかと思います、嬉しくなりました。

(声楽領域 2 年 姫田美優／前期のみ受講)

私はこれまで何度かアウトリーチを経験してきたのですが、もっとクラシック音楽や私たち自身を身近に感じてもらうためにはどうすればいいのかと、聴き手の方と心の距離を縮めることの難しさを感じていました。

授業を通して、他の誰でもなく、私たちだからこそ届けられる演奏会にすること、そしてそれを言葉でもしっかり伝えることの大切さを学びました。本番では、今まで

行ったことのなかった一人ずつの自己紹介を試みたところ、お客様の笑顔をすぐに見ることができ、その後私たち自身も安心して良い流れで続けることができたかなと思います。聴き手に心を開いてもらうためには、まず自分たちが先に心を開くことが大切だと実感しました。

病院でのアウトリーチは初めてだったのですが、「辛い闘病生活の中で、この演奏会の時間だけはその辛さを忘れられた」というコメントをいただき、涙が出るほど嬉しかったです。また、親近感を感じられたという声もあり、目指していたものができたのかなと嬉しく思いました。この経験を通して、これからも精力的にアウトリーチ活動を続けていきたいです。
(弦楽器領域 2年 篠原智香／後期のみ受講)

私は、後期からこの講義を受講しました。篠原さんにお声がけいただくまで、この授業の存在や、アウトリーチという取り組みを知りませんでした。もっと早く受けておけばよかったと思うほど大変有意義な時間を過ごすことができました。

授業の中で一番印象に残っているのは、大雄会病院に訪問した時のことです。大雄会病院で働く医療従事者とお話を通して、患者さんだけでなく、そこで働く方々のことも考える機会となりました。

コンサートに向けての準備では、MC作りが難しかったです。普段のコンサートとは聞く対象者が違うということの意識が難しく、前日まで改良を重ねました。当日は演奏と共に、MCも面白かったと喜んでいただけて嬉しかったです。

自分が音楽をやる意味を考え、悩むことがしばしばありますが、自分たちが演奏することによって喜んでくれる方が沢山いるのだなと感じることができ、修了後もアウトリーチなどの社会貢献活動に積極的に関わっていききたいなと思いました。

(弦楽器領域 2年 高東典央／後期のみ受講)

私は、昨年度の後期からアート・マネジメントの講義を履修しました。今年度の前期は、保育園でのアウトリーチとのことで大変楽しみにしていました。座学の授業では、本学にて博士号をとられ更に保育士免許をとられたフルート奏者の丹下聡子先生の講義が特に印象的でした。日頃から保育士として子ども達と接している先生のお話から、子ども達一人ひとりと、真っ直ぐに対等な立場で向き合うことの重要さを学びました。

実践当日は、悪天候に見舞われましたが子供たちは元気いっぱい、私たちの方が元気をもらってしまいました。実際に現場で演奏をすると、子供たちは様々なアクションを返してくれました。それが私は心から楽しく、面白かったです。それぞれ違った関心をもつ子供たちですが、彼らもまた一緒にこの時間をそれぞれ楽しむことが

出来ていたとしたら、非常に意義のあるアウトリーチになったのではないかと思います。
(管・打楽器領域 2 年 高橋喜仁／前期のみ受講)

今まで音楽や楽器に触れたことない小さな子たちに向けて演奏ことは無く、初めてだったので、やってみたくて授業をとったものの、最初からランスルー、本番までとても不安でした。選曲から流れまで、どの程度園児が分かってくれるのか、また楽しんでもらえるのかを考えるのが難しくグループで試行錯誤しました。皆さんから頂いたアドバイスも元に直前まで変更を加えたりしましたが、形にすることができて良かったです。当日は保育園の子たちが反応してくれたり、集中して聴いてくれてとても嬉しかったです。特に 0.1.2 歳クラスの子も途中手拍子をして聴いてくれたりするのもとても印象的でした。またどのクラスも好きなクラリネットを一生懸命答えてくれたのが嬉しかったです。保育士さんも「やっぱり生の音、音楽は良いですね」と仰ってくださいましたが、園児の子たちもアウトリーチ後に絵を描いてくれたりして、何か響いてくれた様子だったので、音楽の力って本当にあるなと体感するととても貴重な機会、勉強になりました。コンサートで演奏するのはまた違って、近い距離で反応をもらえて楽しんでもらえる様子を間近で見ることができたのは、私にとって新しい経験でした。
(鍵盤楽器領域 1 年 関志帆／前期のみ受講)

お客様である病院へ通院している患者様へ何を伝えたいか、どんな楽曲だと記憶に残りやすいかを考えながらメンバーの 3 人とメンターさんと相談しながらプログラムを組みました。

メンバーそれぞれのお気に入りの曲を 1 曲ずつ披露し、4 人全員で演奏する曲も聴き馴染みのある坂本九さんの曲を選択しました。広いホールでの演奏とは違い近い距離感での演奏だったため、お客様と本番でしか生み出せない瞬間を一緒に作る事ができたといつも以上に感じる事ができました。なにより私達の MC や演奏を聞いて、お客様が笑顔になっていることが伝わってきて嬉しかったです。

1 年生後期の期間は私にとって一人で思い悩み立ち止まってしまう時間が多く、自分が音楽の勉強をする意味も分からなくなる時がありました。しかしこのコンサートで歌ったこと、メンバーとメンターさんと過ごした期間は、仲間と音楽を作り上げて曲の魅力をお客様へ届けるという、私にとって 1 番大事なことを思い出させてくれた大切な時間になりました。授業を休みがちだった私を見守ってくださった先生方、授業を受講していた先輩や同期の皆様、本当にありがとうございました。

(声楽領域 1 年 谷口奈々恵／後期のみ受講)

今回が初めてのアウトリーチで、経験したことのない編成（ピアノ、声楽、クラリネット、パーカッション）だったので、最初はとても不安でした。特に全員で演奏する曲目を選ぶのがとても難しく、4つの楽器が揃っていてテーマに沿った曲を探すのが大変でした。そして、私はピアノを担当していたので、ほとんどの曲に参加していたのですが、想像していたより幅広いジャンルのプログラムになったので、曲ごとの雰囲気を変えるのが難しかったです。また、同日に演奏されていたアウトリーチのチームが弦楽器主体の編成だったこともあり、私しかピアノの魅力を伝えられる人がいない、という状況だったので、当日はプログラム通りメンデルスゾーン作曲「春の歌」を演奏させていただいたのですが、どのくらいピアノの魅力が伝わっているのか不安でした。ですが、演奏終了後に「春の歌」を聴いてくださった方とお話した時に、「普段、自動演奏しているピアノの音しか聞いたことがなかったから、人が弾くとすごく綺麗で素敵な音がああピアノから鳴るのね、聞けて良かった」と仰ってくださって、ピアノの魅力を伝えることができたのだなと実感してとても嬉しかったです。

（鍵盤楽器領域1年 石橋幹鷹／後期のみ受講）

愛知県立芸術大学「病院アウトリーチプロジェクト」

2024年度報告書

2025年3月31日発行

編集・発行 愛知県立芸術大学「病院アウトリーチプロジェクト」委員会

〒480-1194

愛知県長久手市岩作三ヶ峯 1-114

愛知県立芸術大学 安原研究室気付

TEL: 0561-76-2851 (芸術情報・広報課) FAX: 0561-62-0083 (代表)

E-mail: outreach@mail.aichi-fam-u.ac.jp

印刷 株式会社ウエルオン

〒464-0858

名古屋市千種区千種 2 丁目 1 番 28 号

TEL: 052-732-2227 FAX: 052-733-3178

URL: <http://www.well-on.co.jp/>